

自転車利用実態定点調査報告

平成28年 11 月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成 28 年 10 月 14 日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間			備考	危険走行	
	車道	歩道	その他		危険走行	その他
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

調査日時	平成 28 年 10 月 14 日
天気	曇
調査時間	8:00~8:50

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、54%であり、歩道走行率は、46%での結果であった。

◎危険運転行為は、片手運転(25件)・立ち漕ぎ(23件)・並列運転/カバン背負い(各8件)・イヤホン使用(5件)・肩に荷物/ハンドルに荷物(各3件)・過積載(2件)・2人乗り/ギター背負い(各1件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

車道左側走行率が、5割強を占めており、比較的ルール・マナーの遵守率が、高い。

なお、危険運転行為の中では、片手運転が、全体(79件)の約32%(25件)/立ち漕ぎが29%(23件)を占めていた。

事故を招きやすいため、行わないことが望ましい

また、カバン背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が望ましい。

なお、校門直前で左右や後方確認をしている生徒は、少なかった。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数712人)の5割弱程度である。

校内には、駐輪場が整備(総収容台数500台)されていた。

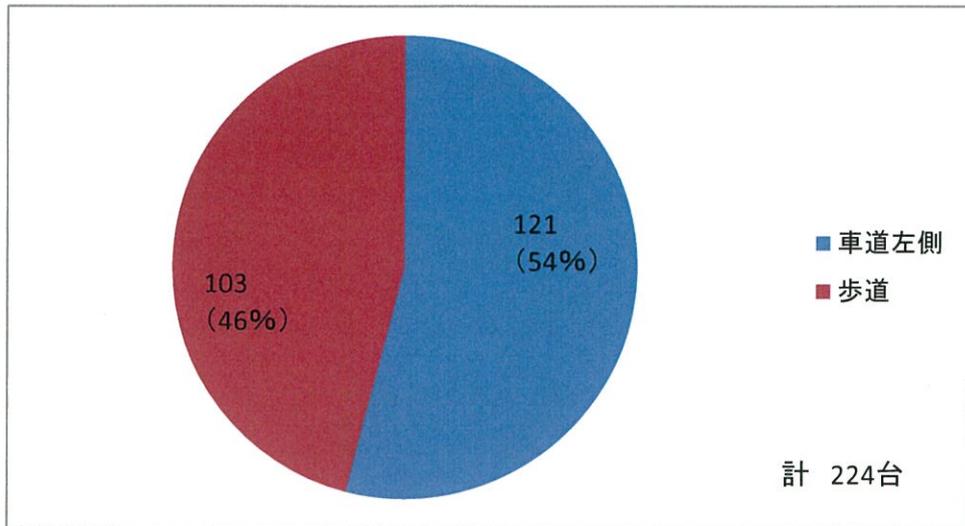
同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

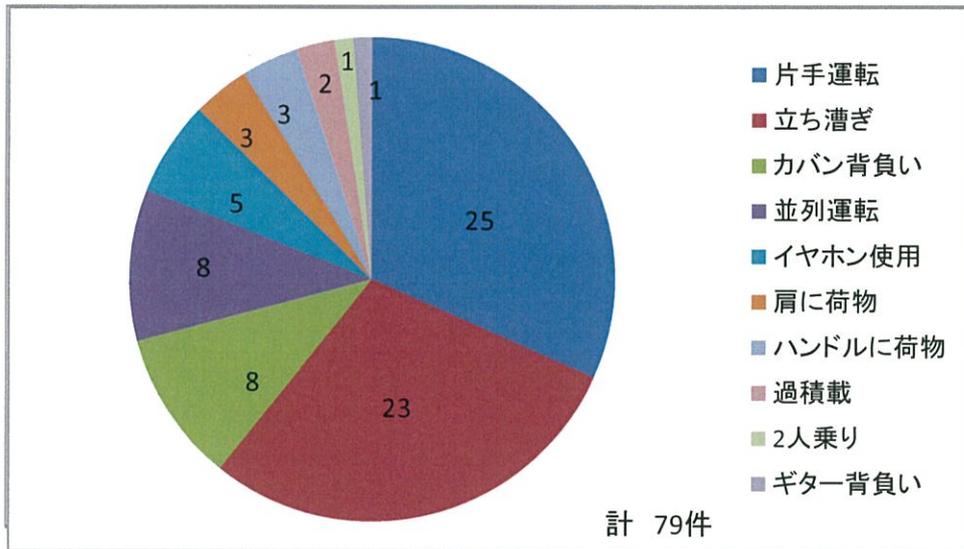
今回、自転車通学用の校門は、正門の1箇所だけであった。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、交通安全啓発の一環として、自転車通学生登録時に自転車のルール・マナー等について確認させるとともに適宜、登校指導期間等を通じて指導を行っている。



走行空間



危険運転行為